



IDF ホームページ/<http://www.fil-idf.org/>ファクトシートより

IDF 文書を JIDF 事務局が仮訳

食品添加物

IDF ファクトシート 2012年10月

食品添加物とはどのようなものですか？

食品添加物はWHOとFAOの食品スタンダードプログラムであるコーデックス食品規格委員会で定義されています。食品添加物とはつぎのような物質を指します。

- 通常は、食品そのものとして消費されない
- 通常は、その食品の代表的な原料としては用いられない（栄養価値の有無とは関係なく）
- 食品に故意に添加され、その技術的な目的は（官能的な面を含めて）その食品の製造、加工、準備、処理、充填、包装、輸送または貯蔵です。
- 添加したことにより、その食品またはその副産物の性質の一部となるか、もしくは一部とならなくても影響を与えるか、当然そうなる期待される結果（直接的または間接的に）をもたらす

栄養的な品質保持または品質改善のために食品に添加される物質または「汚染物質」は「食品添加物」の定義に含まれません。

なぜ食品添加物が用いられるのですか？

その食品において、次のような特定の技術的な機能を充足させるために、食品添加物は低いレベルで用いられます。

- ある食品の栄養的な品質を保持する。例えば、ビタミン、必須アミノ酸および不飽和脂肪酸の劣化防止



IDF ホームページ/<http://www.fil-idf.org/>ファクトシートより

- ある食品の品質保持期限を延長する。例えば、カビの成長防止またはある食品の輸送／冷蔵状況の改善により腐敗を遅らせます
- ある食品の組織、硬さ、味、官能的な特性を保持または改善します。例えば季節変動を調節する、消費者の嗜好に合わせるなど。
- 特別な栄養要求を満たす食品を消費者に提供します。例えば、砂糖の代わりに人工甘味料を含む食品が必要な糖尿病患者。
- 消費者の要望する味、品種や便利さの違いに応えます。食品添加物を用いれば食品産業は世界中から食品を消費者に届けることができます。
- 食品の環境影響を減らす：食品添加物がなければ、消費者はほぼ毎日食品の買い出しに出かけなければなりません。

食品添加物の安全性と妥当性を決定するには？

食品添加物は、ある時期の収穫から次の収穫まで保存するために、あるいは味や見栄えを良くするために過去何千年も用いられてきました。食品添加物の起源は様々です。多くの食品添加物は植物に由来しますが、合成や発酵により生産するものもあります。使用レベルで安全性の証明が提出された食品添加物だけが食品に用いることを許可されます。食品のなかでその食品添加物の必要性が証明されていなければなりません。食品のなかで当該の食品添加物の必要性が証明されていなければ、その食品添加物を用いることができません。したがって、食品添加物を食品に用いる前に、いかなる食品添加物もその安全性を厳しく確認することが不可欠であり、そのような試験は独立した専門家がチェックしなければなりません。

世界的には、独立した専門家のもっとも重要な科学パネルは、FAO/WHO食品添加物専門家会議－JECFAです。この国際的な専門家グループは国際連合食糧農業機関FAOと世界保健機構WHOから合同で支援されています。食品添加物の基本的な安全性評価方法には、毒性試験が関与します。主に動物試験を用いてリスク評価する種々の方法が用いられています。これらの結果から、ヒトにどのような効果がでるかを予想します。この方法により一日摂取許容量が求められます。



IDF ホームページ/<http://www.fil-idf.org/>ファクトシートより

食品添加物の一日摂取許容量は？

一日摂取許容量（略してADI）は、体重ベースで表現され、容易に感知できる健康リスクを伴わずに毎日一生涯に渡って摂取しても大丈夫なある食品添加物の推定量です。食品中の食品添加物の安全使用レベルを定める関係当局が用います。

妥当な安全性因子は、動物とヒトの種差を考慮しています。また個別のヒトの違い、性差、年齢、健康および栄養状態も考慮します。

ADIは毒性のレベルではありません。ADIは安全であることが示されたレベルです。たまにADIを超えて消費しても平均の一日摂取量がADI以下であれば、健康上の問題を引き起こすことはありません。長期的には、日ごとベースの摂取量ではなく、いつも平均消費レベルと比較すべきです。

さらには、ヒトのADIは動物で観察された値の100分の1以下で設定されています。それ故、子供や高齢者のような感受されやすいグループも考慮されています。延長期間に曝して「最悪のケース」を想定した計算法で評価することにより、例外的な消費を斟酌しています。

翻訳：JIDF事務局

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。